

観光振興対策特別委員会行政視察報告

観光振興対策特別委員会では、今治市と岡崎市を行政視察しました。
概要は以下のとおりです。

- (実施期間) 令和 7 年 11 月 5 日～令和 7 年 11 月 7 日
(視察都市) 今治市、岡崎市
(視察内容) 今治市：広域連携を踏まえたサイクリングでの観光振興について
岡崎市：第 2 次岡崎市観光基本計画など観光に関する取組について

〔今治市〕

今治市では、広域連携を踏まえたサイクリングでの観光振興について説明を受けた。

今治市は、令和 2 年に今治市サイクルシティ推進計画を策定し、市民、事業者及び行政が協働して自転車の利用推進に努め、交通ルール遵守・マナー向上などによる、誰もが安全に安心して自転車を利用でき環境を整えるとともに、瀬戸内しまなみ海道を核としたサイクリング環境のグローバル化による地域の活性化を図り、もって日本における自転車を活用したフロントランナーとしてのまちづくりを推進することを目指している。

また、本四高速株式会社、愛媛県、今治市、広島市、尾道市が協力して、しまなみ海道自転車道の通行料無料化を実施しており、しまなみ海道のサイクリング客数は、平成 30 年度で推計 332,683 人にのぼる。

さらに、尾道市とは、昭和 43 年に姉妹都市提携を締結し、平成 11 年には瀬戸内しまなみ海道によって橋で結ばれ、海道の開通により、自転車を活用した観光振興策にも連携して取り組んでいる。

委員からは、自転車の施策を進めるに当たり、課題はあるかなどについて質問が出された。



(今治市での視察風景)

〔岡崎市〕

岡崎市では、第2次岡崎市観光基本計画など観光に関する取組について説明を受けた。

第2次岡崎市観光基本計画では、基本目標に「観光客」の感動を「市民」の幸せにつなげる観幸都市の創造を掲げ、5つの基本施策（アフター大河への展望、リピーターの獲得、若者交流人口の流入促進、観光の継承と市民の自分事化、観光マーケティングの充実とデジタル化）を中心に事業を実施している。

また、基本施策のほかに重点事業として、もっと岡崎、きっと家康ツーリズム、カモン若者ツーリズム、サステナブルツーリズム、オリジナル観光マーケティングの4つの事業を展開し、取り組んでいる。

もっと岡崎、きっと家康ツーリズムでは、歴史観光プロモーションの推進や、歴史観光を活用した交流機会の創出などに関する事業を実施している。

カモン若者ツーリズムでは、官民の多様な若者誘客コンテンツとの連携、オリジナル観光マーケティングでは、インバウンドを意識したマーケティングなどを実施している。

インバウンド誘客については、体験オカザキとして、グレート家康公「葵」武将隊特別演武の鑑賞や、忍者を相手に甲冑を着用した殺陣体験などを実施している。

さらに、県内外の自治体や観光協会等との連携については、平成19年に金沢市と観光交流都市となり、平成28年から静岡市、浜松市と全国家康公ネットワークについて連携を行っている。

岡崎市の宿泊客は、観光客全体の約5%程度であり、ビジネスでの来訪が多いことを踏まえ、観光協会では大型イベントと連携した宿泊プランの造成や、周遊施策として、岡崎観光伝道師を活用した謎解きゲームの実施など、長期滞在を促す観光施策に注力している。

委員からは、グレート家康公「葵」武将隊は官民で運営しているのかなどの質問が出された。



（岡崎市での視察風景）